

## 薬物治療管理や服薬指導を支援する薬物動態情報データベースの構築

○長尾理乃<sup>1</sup>、村田佑香<sup>1</sup>、市丸咲紀<sup>1</sup>、雨宮理<sup>1</sup>、大野逸子<sup>1</sup>、柴崎光太郎<sup>1,2</sup>、杉平直子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>データインデックス株式会社、<sup>2</sup>株式会社柴崎薬局

### 【背景・目的】

チーム医療における薬剤師の役割の一つとして、薬物動態情報を活用した情報提供や薬物治療管理の実践が求められている。薬物動態の指標となる項目は多岐にわたり、その情報源も添付文書や医薬品インタビューフォーム(以下、IF)、各種文献など複数存在する。そのため現状では、必要とする情報を必要なタイミングで抽出することに多くの時間を要している。そこで、薬物治療管理や服薬指導の支援を目的として薬物動態情報のデータベースを構築した。

### 【方法】

本データベースの登録対象は、内用薬・注射薬に該当する糖尿病治療薬・降圧薬・脂質異常症治療薬・抗生物質・抗悪性腫瘍薬の約4000品目とした。添付文書やIF、各種文献を基に、血中濃度、薬物速度論的パラメータ、吸収、分布、代謝、排泄情報をそれぞれ収集し、データ化した。血中濃度情報においては、健常人と肝機能及び腎機能障害患者における血中濃度変化のグラフ表示が可能となるような構造とした。さらに、尿中活性体排泄率を基準とした判定項目「肝腎排泄型コード」を設定し、体内からの消失経路を推測できる判定項目を付与した。

### 【結果】

複数の情報源を検索することなく薬物動態情報を参照、グラフ表示することが可能となった。また、同種・同効薬など異なる成分間における薬物動態情報の比較も容易になった。

### 【考察】

日本病院薬剤師会策定の「IF記載要項」によって内容の標準化が進んできているが、同一薬効内で情報量の異なる資料や標準化が図られていない時代の資料を用いて薬物動態情報を収集することは困難を伴った。

本データベースにより、薬剤師の経験やスキルを問わず迅速で網羅的な薬物動態情報の抽出が可能となる。本データベースは、体内動態や消失経路を考慮した処方監査や質の高い服薬指導の実践を支援し、薬剤師業務の効率化と薬物治療管理の質向上に貢献するものとする。